

長岡空襲体験談保存プロジェクト

～語り継ぐ「8月1日」～ にあたって

昭和20年8月1日22時30分。長岡市は、アメリカ軍B29爆撃機125機から投下された163,456発もの爆撃により、旧市街地の約8割が焼失し、現在分かっているだけでも1,484名もの尊い命が失われました。

長岡に生まれたもの、長岡に生きるもの、長岡に暮らすものとして、この惨劇は決して忘れてはならない史実です。しかし、今年で長岡空襲から68年の歳月が過ぎ、間もなく戦後70年を迎えようとしている中、戦災体験を語り継ぐ方々は年々高齢化が進み、そのお話を聞くことの出来る機会も少なくなって来ております。

私たち長岡青年会議所が昭和59年より毎年8月1日に執り行って来た柿川灯籠流しも今年で第30回を迎え、毎年、多くの市民の皆様からご参加を頂いております。私たちはこの事業を通じて、殉難者への慰霊の想い、戦後復興に尽力された先人たちへの感謝、恒久平和への願いを込めて取り組んで参りました。

今回の長岡空襲体験談保存プロジェクト～語り継ぐ「8月1日」～では、未来を担う子どもたちに対し、長岡にとっての「8月1日」の意味を語り継ぐことを目的として取り組ませていただきました。そして、長岡空襲殉難者遺族会の新井淳夫会長と金子登美様の体験談、体験者のお話を直接お聞きした小中学生の感想文、長岡青年会議所メンバー作成の物語『あの夏の「8月1日」』、長岡空襲に関する資料をまとめさせていただきました。

本プロジェクトが、長岡空襲という史実をしっかりと学ぶ機会となり、子どもたちに命の尊さを教え、未来永劫に語り継ぐことで平和への祈りと感謝の心を育む糧となれば幸いです。

平成25年12月1日

2013年度
一般社団法人 長岡青年会議所
第59代理事長 村田 靖

Be Gentleman
～ 自らの良心に従い、誇りある行動を ～

